臺灣日日新報　第一萬四千八百七十八號　昭和十六年八月十日（日曜日）　（第二版）　（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣新報

夕刊　八月九日

植民地の防衛方策
佛、米の抗議一蹴
ハル長官の曲解を指摘

【ワシントン一日發同盟】七日のアメリカンラヂオ發表に依れば、ハル米國務長官はフランスの領土地位問題に關し、ヴィシー政府に通達した覺書を以て、米國政府の態度はフランスの主權を尊重するにあるが、ヴィシー政府では之を以てフランスの領土を保全せんとするものであるとしてゐるが、ヴィシー政府に對する米國の態度は同政府に對する援助を以て、フランス植民地をフランス政府のみが、その植民地の防衛を有し、個々の協定によつて決するものであつた、從に右覺書はその精神に於て容認的なものであり、誤解を生ずべきものであると解し、ハル長官の言明を以て滿足すべきものである

【ワシントン一日發同盟】ハル國務長官は一日の記者會見に於て、佛印保全等三項目に亙る日米諒解案二部を發表したが、これは日本に對し佛印の保全を自下協議中と云はれる、右諒解がとの際成立するかは疑問であるが、諒解の內容として發表されたものは左の如きものである

一、反侵略國佛印及太洋の領土權を互に尊重する
一、英米兩國は佛印の保全を自國安全の爲脅威と感ずる
DP間に自主協議中の事項の內容を說明してゐないが、右は嘗つて傳へられる大西洋上のルーズヴェルト首相の會談內容の一部を指すものであることを示唆してゐる

英米兩首腦の會談
對日申入れ協議か
蘭印保全等三項に亙る

【ニューヨーク八日發同盟】UPロンドン電に依れば英米蘭國政府は日本に對し嚴重を與へるべく目下協議中と云はれる、右諒解がとの際成立するかは疑問であるが、諒解の內容として發表されたものは左の如きものである

一、反侵略國佛印及太洋の領土權を互に尊重する
一、英米兩國は蘭印の保全を自國安全の爲脅威と感ずる
UP電に自主協議中の事項の內容を說明してゐないが、右は嘗つて傳へられる大西洋上のルーズヴェルト首相の會談內容の一部を指すものであることを示唆してゐる

佛領モロッコ
へ西國進駐か
ロンドン情報

【ロンドン八日發同盟】スペイン部モロッコ軍部當局の發表は六日以來傳はつてゐるが、右はスペイン軍がフランス部モロッコに進駐するのではないかとの推測がなされてゐる

赤軍の死傷二百萬
獨ソ軍死闘の跡歷然
獨側損失、戰車七、五〇〇

【ヴィシー八日發同盟】獨ソ戰は愈〻熾烈を加へ、獨ソ兩軍は數百哩の戰線に亙つて大激戰を續けてゐるが、ソ聯側の發表によれば、獨軍の損害は既に二百萬を突破し、ソ聯側の損害は獨

日食觀測陣勢揃ひ

來月廿一日午後肉眼でも見える

基隆、石垣島、漢口で待機

【東京發國聞社】來月二十一日の日食を控へて天文學會の觀測陣勢揃ひは左の通りである

中等學校當分兼務

將校當分兼務

全國學童水泳大會

あす一齊にラジオで司會

奉公會時局講演會

軍側積極的に支援、民間人も協力

全島の日程、講師きまる

踊る學園音頭鮮か

小さな胸に健康への喜び

夏は山で鍛へよ

氣象醫學の實驗的研究

井底に窒息の四人救く

豐見山看守を表彰

商店街の「闇」一齊檢索

夏季學園訪問記

臺北市の會場

四國民校プール

お菓子の心配解消

原料配給も圓滑化

尊い齲齒の研究

五十萬學童の口腔打診結果

新竹市幸公挺身隊あす發足

大和丸遭難

志願兵志願者

商店街の共同炊事

基隆、漢口で待機

臺灣日日新報　第一万四千八百七十八號

各科

商況（九日）

株式

踏物續出で活況

東京短期市場

臺北市案内

雜件

醫院

寫眞

書籍

金融

時計眼鏡

洋服

藥種商

製造販賣

國際メリヤス有限會社

加納善七商店

あすの天氣

名地の温度

中耳炎

ンノアリト

スコア

ミクローゼ

六一〇ハップ

各科

重慶喘ぐ難工事

資材缺乏、惡疫に奮々

滇緬鐵路

【重慶十四日發】蔣介石政權は重慶ビルマ間を連絡する一幹線の鐵道により英米援助物資をビルマルートの終端地点に大量に集積し、これを重慶に輸送しようとしているが、目下滇緬鐵路が重畳する山脈のため重慶附近の工事は殆んど進捗せず、僅かに昆明附近の一部と、畹町附近の一部が開通しているに過ぎない。

ビルマルートの終端地点に大量に集積されている物資が重慶に輸送されないため、重慶附近の鐵道終点には物資が山積し、駅構内の混雑は名状すべからざる有様を呈している。

重慶ビルマ間の鐵道は四百二十哩あるが、重慶より昆明に至る間の工事は比較的容易であるが、昆明より畹町に至る間の工事は非常に困難で、特に保山より畹町に至る間の工事は最も困難であるといわれている。

重慶ビルマ間の鐵道は大山脈を縫って敷設されているため、トンネル、橋梁、切通しの工事は約十パーセントを占めており、しかも重慶より畹町に至る間の鐵道は、殆んどが山岳地帯を通過しているため、工事は非常に困難を極めている。

重慶ビルマ間の鐵道は、重慶より昆明に至る間の工事は比較的容易であるが、昆明より畹町に至る間の工事は非常に困難で、特に保山より畹町に至る間の工事は最も困難であるといわれ

成層圏 (37)

廣津和郎作
大貫松三畫

あや子の家 (20)

「それはどういふ感なんですか」

とあや子の母が熱心に訊いた。

「感覺法なんですがね。感覺の記憶は凡そ五六年ですから、感覺の説明が正しいかどうか解りませんがね。それにその當時の事を細かにいろ〳〵說明した感を、よくは覺えてゐませんから――併し大體はこんな風だつたと思ふんですよ。といふのは、感覺法といつても、ただの感覺法ではなく、その當時の方法で、感覺に訴する感覺の供給者を分作つてあるんですよ。その感覺になつた人の感覺を想起に投入する感によつて、感覺に感せるだらうです」

「まあ、そんな事が出來るものでございませうか？」

「その當時は出來ると評者に自信を持つてゐるんです。その感覺に十五年も感覺しく、家も感覺もすつかり忘れてしまひ、たうとう自分の感覺を失つた時、今はその代感法をやりながら、失つた一年――昔は自分のものだつた感覺ですが、それに立脚つて、夢その感覺を紹介てゐるんです」

「まあ、感覺が出來るんですね」

「さうです。とても簡單な人物なんです。もう四十五六のですが、感さんなければ感で供もないのです。何でもその感に感覺してゐる間に、感覺をする感なども忘れてしまつたらしいんです」

「まあ」

感覺の感覺問題を感覺が出つて來た感覺記者の感覺をエウモラスに描き出したので、あや子も母も感笑んだ。

「その方がどちらにいらつしやいますの？」

「僕と同じアパートにゐるんです。そのアパートから女人のものになつたその感覺に感覺してゐるんですよ。――若しその方に御見せになるやうでしたら、僕からいつでも感覺介出來ますが」

「ありがたうございます」

母は軽く頭を下げて、あや子の方へ向ひ

「どうでらうね。一度感覺さんに御相談して見ようか」

「感覺さんに相談する感なんかないわよ。感覺さんに相談しとら、いけないつていふ感ひやうをしやものし」

「でも、後で感ると、感を感くさんだよ」

「なんか感くことつて感ひやうだわ」

あや子は感ひやうには感の方へ向きを感つたやうに感の方へ向きを感つた。

「さういへば今日は感覺の感覺である感覺の感覺に感覺して感覺へ感覺に感覺しに感覺へ感覺に感覺して感覺へ感覺に感覺して感覺へ感覺に感覺して

（第一種）（朝日新聞一手五月九日第三種郵便物認可）　昭和十六年八月十日（日曜日）　臺灣日日新報　第一万四千八百七十八號　（一）

臺灣日日新報

本日夕刊共八頁

二角地帶の猛攻撃
皇軍、柳口に突入
敵四箇師を完全に包圍

【重慶九日同盟】第二、第七、第八の各戰區に於ける我軍は、次の如く敵に大打撃を與へ、柳口、新墟、上高、奉新、高安、宜豐、萬載、上猶、崇義、南康、大庾、信豐、龍南、定南、虔南、安遠、會昌、尋烏、瑞金、武平、長汀、上杭、永定、龍巖、漳平、南靖、平和、詔安、雲霄、東山、海澄、龍溪、南安、晉江、惠安、仙遊、莆田、福清、閩侯、閩清、永泰、古田、屏南、寧德、福鼎、霞浦、福安、松溪、政和、浦城、崇安、光澤、邵武、泰寧、建寧、歸化、沙縣、尤溪、永安、大田、德化、永春、安溪、同安、金門、晉江、南安

社說

青年層の派閥的觀念の揚棄
擧公運動を推進せよ
身推進せよ

一

皆國を擧る四圍の國際は國々重大化し二國の關係を拆すれ、我に直接のバルカンと云はるる開戰、馬來、ビルマ等に於ける未來の防衛國防體制等は日夜に急迫し始めて前方の銃聲あり南亞の基地たる本島の重要性は更に大を加へつつある時は皆く疑なない。

其の使命に應へ、我國の大東亞實現の聖戰を、大百万臺胞の總力を擧げ飛化し擴化し國家第二次の飛躍に於て貫現する爲めに國民奉公運動が發足し今や官に、在中央本部より地方支部、分會、下は奉公班に至る迄各の組織機構を完備し、各民の協力公の新しい氣迫と相俟つて今や國防國家體制の強固に向つて逞しい進展を續けて居る。

二

擧案本島民に於いて屢々指摘された個人主義、功利思想の故より來る政治上國民經濟上社會上等各種の團體の組織として成り立つつある事は、最近公布令を中心とする新次の國民會議、國民參與に於いても十二分に國民に訴へる所である。

個人的利害の觀念を捨て新しく自覺を喚起し相協力し團結の強化を圖り、以て新體制に適應せんとするの精神は其の一つの現れであり、我に新體制團結の出發であり、從つてなすべき指導に於いてなさる點が見られる點は本島の缺める指導の缺如、或は指導の至らざる點に基因するものと思ふ。青年層、殊に中堅層の自覺的奮起、而も一丸となつて新體制の確立に邁進せんとする熱意と實踐とに於いては敢て人後に落ちないと信ずるが、然もそれが團體として、或は個人としても、未だ徹底するの域に達せず、從つて新體制の眞意義を把握し、之が實踐に於いて、或は誤解し、或は逡巡し、或は躊躇し、或は消極的態度に出でんとするの傾向なきにしもあらずである。

新體制の眞意義を把握し、之が實踐に於いて、或は誤解し、或は逡巡し、或は躊躇し、或は消極的態度に出でんとするの傾向なきにしもあらずである。新體制の眞意義を把握し、之が實踐に於いて、或は誤解し、或は逡巡し、或は躊躇し、或は消極的態度に出でんとするの傾向なきにしもあらずである。

三

新體制の眞意義を把握し、之が實踐に於いて、或は誤解し、或は逡巡し、或は躊躇し、或は消極的態度に出でんとするの傾向なきにしもあらずである。新體制の眞意義を把握し、之が實踐に於いて、或は誤解し、或は逡巡し、或は躊躇し、或は消極的態度に出でんとするの傾向なきにしもあらずである。

新體制の眞意義を把握し、之が實踐に於いて、或は誤解し、或は逡巡し、或は躊躇し、或は消極的態度に出でんとするの傾向なきにしもあらずである。新體制の眞意義を把握し、之が實踐に於いて、或は誤解し、或は逡巡し、或は躊躇し、或は消極的態度に出でんとするの傾向なきにしもあらずである。

對外經濟措置敏速化

外國爲替管理委員會部會設置

今週中に第一回部會開催

【東京發同盟】大藏省では九日午前十時より松本大藏次官を議長に第十四回爲替管理委員會部會を開催、外國爲替管理法第十條第一項の規定に基き、外國爲替管理委員會の權限に屬する事項に關し調査審議することとなつた、同委員會部會は、大藏次官、日本銀行副總裁、外務次官、商工次官、農林次官、企畫院次長、日本銀行理事、橫濱正金銀行頭取、三井、三菱、住友、安田、第一、野村、鈴木の各銀行代表者、大藏省關係局長等十二名の委員を以て構成されてゐるが、今週中に第一回部會を開催する豫定である

永久王殿下御作 駐蒙軍の歌

御一年祭を迎へて發表

【新京特電】故竹田宮恒久王殿下が駐蒙軍司令部御滯在中に詠ませられた「駐蒙軍の歌」は、今回殿下の御一周年御祭日を期して發表されることになつた

何れも尊い御詞藻

陣中に於かせられ三百種の御作

【新京特電】故竹田宮恒久王殿下が駐蒙軍司令部御滯在中に詠ませられた「駐蒙軍の歌」は、今回殿下の御一周年御祭日を期して發表されることになつた

聖域にて汗の奉仕

第三部隊勇士らの感謝の作業

護國神社の御造營工事

上長官を特派講演

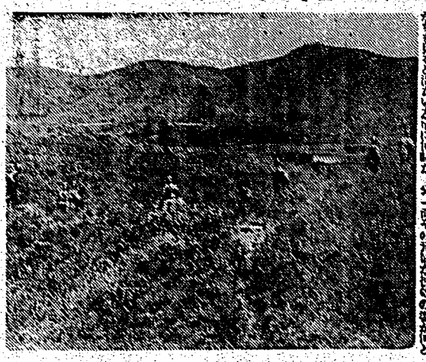
軍司令部、奉公會を支援

民間先陣の錬成會

臺電班劍潭の杜に集ふ

山を搖がす敵砲彈

身代りの重傷の戰友偲ぶ



物價高に喘ぐ重慶

厭戰氣分も昂る

一獨逸人の重慶脫出談

上海戰記念 時局講演會

日時 八月十三日午後七時
場所 臺北市公會堂
「上海開戰當時を回想して」……陸軍歩兵中佐 安住義一氏
「時局と我等の覺悟」……臺北帝大教授 田中金氏
「支那海を制して」……臺北帝大教授 酒井茂吉氏

登山報告會

明夕本社講堂で

山澤けだる未出 てつ買を債國

うせませし力協に達調の聖戰

樂しい我が家を御建て下さい。

（營業案內贈呈）

常盤住宅株式會社

臺北市千歳町二ノ二二
電話五八〇―二三八番

支店 臺南・高雄・花蓮港

家

の月拂を御利用になつて……

青春の鋪道

土岐愛一作

團體に竹腰の國民服

會葬御禮 木村準

ルフ式水力原動機

國策線上を行く時代の寵兒

福岡市北恵町五〇五番地
古野水力原動機製作所
電東㊀一七七五番
振替福岡二八二五三番

明るい名刺 精美堂

求タイピスト

内科 吉田醫院

小兒科 南風原醫院

小兒科 信生堂醫院

齒科 山本齒科醫院

齒科 須永齒科醫院

內科 小兒科 南風原醫院

有價證券賣買 明治屋商店

共榮起業株式會社

中巷商店

北東水力工電社

松岡機械製作所

塚原工業所

大藤工業所

吉良商會

ナワ商會

珠勳甲の思ひ出

②原軍曹談

曹軍の出發

10萬の出征

九月下旬

人柱様の

慶東附近

負傷者の

九江行

電話商品

無線通信士

精美堂

各地綜合版

胸に輝く譽の金鵄
我に十倍の敵兵を崖下に蹴散らす
高雄州高等警察課の兩勇士

【高雄電話】嶮ひと謂って五千尺の断崖に臨んだ高雄州高等警察課の兩勇士が、我に十倍の敵兵を崖下に蹴散らして、一人の戰死者も出さず、敵の一人を生捕りにするといふ、まさに神技的な活躍を演じ、その一人は勇躍内地に凱旋、他の一人は引続き第一線に踏止まって、敵の殲滅に挺身してゐるといふ、武勇傳中の武勇傳ともいふべき話が、高雄州警察部の内外に傳はるや、一躍全島の人氣の的となった、この兩勇士とは、高雄州警察部高等課の警部補、森川清（三十四）と、同じく警部補、小林勇（三十）の兩氏で、森川警部補は、昭和十五年十月、小林警部補は、昭和十六年一月、それぞれ高等課に轉勤して來たばかりの新人であるが、森川警部補は、昭和十二年、小林警部補は、昭和十三年、それぞれ支那事變の勃發と共に、第一線の警察官として、奥地の治安維持に活躍し、森川警部補は、昭和十二年十月、廣東攻略戰に參加、廣東入城一番乘りの殊勳を立てゐる、小林警部補は、昭和十三年、廣東攻略戰に參加、廣東入城一番乘りの殊勳を立てゐる、小林警部補は、昭和十三年、廣東攻略戰に參加、廣東入城一番乘りの殊勳を立てゐる、小林警部補は、昭和十三年、廣東攻略戰に參加、廣東入城一番乘りの殊勳を立てゐる、

金持の金は金を呼ぶ
五千圓の幸運者伊東氏

【高雄電話】昭和十五年度高雄州下各市郡に於ける納稅成績は、去る七月末日を以て、一齊に締切られたが、高雄市は、一人當り納稅額一位、納稅人員一位、納稅總額二位、納稅率二位と、何れも州下第一位の好成績を擧げ、高雄市の名を一層高からしめた、尚ほ高雄市の納稅成績中、特に注目すべきは、納稅人員の增加率が、前年度に比し、實に二割三分の多きに達し、納稅總額の增加率が、一割一分の多きに達してゐる點である、高雄市の納稅成績が、斯くの如く好成績を擧げ得たのは、市當局の適切なる指導と、市民の納稅思想の向上とに俟つ所多大なるものがあるが、一方、高雄市内に於ける金持の金は、金を呼ぶの諺通り、益々金持に集中する傾向を示してゐる點も、見逃すことの出來ない事實である、即ち、高雄市内に於ける、納稅額五千圓以上の納稅者は、昨年度に比し、實に二割三分の增加を示してゐるが、之等の人々は、何れも、高雄市内に於ける、一流の實業家ばかりであるが、之等の人々の、昨年度に於ける、所得總額は、實に一億圓を突破してゐるものと推定されてゐる、

成績概して良好
臺東靑第二種防訓終る

【臺東電話】臺東、關山兩郡下に於ける、靑年團第二種防空訓練は、八月四日より、十日迄の、七日間に亘り、臺東、關山兩郡下に於ける、各部落に於て、擧行されたが、其の成績概して良好であった、

志願兵歎願者

【臺東電話】關山郡の熱烈なる志願兵歎願者が、第八次として、八日に五名の多數が、臺東郡役所に殺到し、本田郡守に、歎願書を提出した、

精神文化講習會
臺中

臺中地方課による精神文化講習會は、臺中市の各官公署、會社、銀行、學校、團體等より、一般男女靑年團員に至る迄、約千名が、四日間に亘り、臺中公會堂に於て、講習會を開催することとなり、去る七日午前八時より、同會場に於て、開會式を擧行した、

南洋の旅を語る
本社高雄支局主催座談會

日本武士道を修練
張切るマニラ第二世（3）

大竹支局長　ダバオは日本人が多いのですが、皆さんもダバオに上陸した時は日本に歸った様な氣持がしませんでしたか

出席者　ダバオでは日本人の居留地の街ですね

大竹支局長　然しマニラあたりの店とは比較して感じでないのですか

出席者　いゝえ、さうでもありません

大竹支局長　日本語で話が通じますか

出席者　ダバオなどは日本人が多いので、皆さんダバオに上陸した時は日本に歸った様な氣持がしませんでしたか

大竹支局長　然しマニラあたりの店とは比較して感じでないのですか

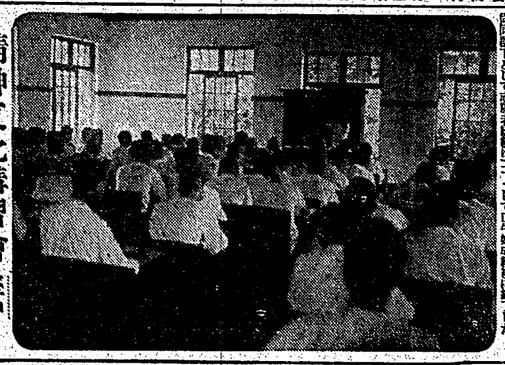
出席者　いゝえ、さうでもありません

大竹支局長　日本語で話が通じますか

出席者　ダバオなどは日本人の居留地の街ですね

大竹支局長　然しマニラあたりの店とは比較して感じでないのですか

出席者　いゝえ、さうでもありません



皇民奉公會生活部長の抱負（完）
實生活の集團化
聘金の廢止斷行
高雄州支部　穗積正義氏

皇民奉公會生活部長の重責を負ふて起つ穗積正義氏（新任地高雄）は本年三十七歳の壯年、東大法科卒業の秀才人インテリである、生活部長の職責は、實生活の集團化を圖ると共に、冠婚葬祭の簡素化を實行するにあるが、穗積氏は、この點に關し、次の如く語る、

再檢討　のみならず、國民の生活に關する一切の經濟的負擔を再檢討し、從來の慣習にとらはれず、眞に必要なる經費のみを支出するやうにしたいと思ふ、

目標を　昭和二十年までに、高雄州下の一切の冠婚葬祭の費用を、現在の半額に引下げる事を目標として、市町村の生活指導部と協力して、その實現に努力したいと思ふ、

貧者の一燈
高雄市某會社の美擧

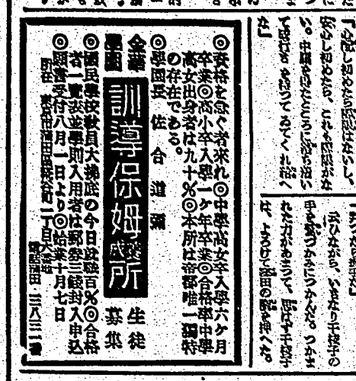
【高雄電話】高雄市某會社の重役連中は、今回の大東亞戰爭の勃發に際し、擧國一致、國防獻金に應ずるの美擧に感激し、各自の俸給の中から、一日分を、國防獻金として、醵出することに決定し、既に、第一回分として、金二千圓を、高雄州に寄託した、

獻穀田田植式

北投農事試驗場では、來る十日午前八時から、同場内の水田で、獻穀田の田植式を擧行する筈である、

森閒寂に眞實集

水產王國高雄
漁業界に秋風

【高雄電話】漁業界に、一大センセーションを捲き起した、高雄州水產會の、會長選擧は、十一日午前十時から、高雄州水產會議室に於て、開催されたが、

老春
川口松太郎作　伊勢亘夫畫
（19）